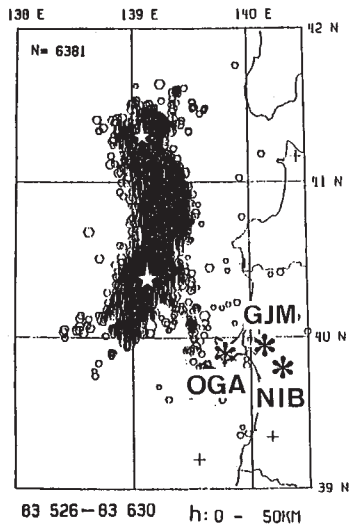


2 - 5 日本海沿岸 3 観測点 (男鹿, 五城目, 仁別) における傾斜変動 Tilt Variations Observed at the Three Observation Stations along the Japan Sea Coast (Oga, Gojome, Nibetsu)

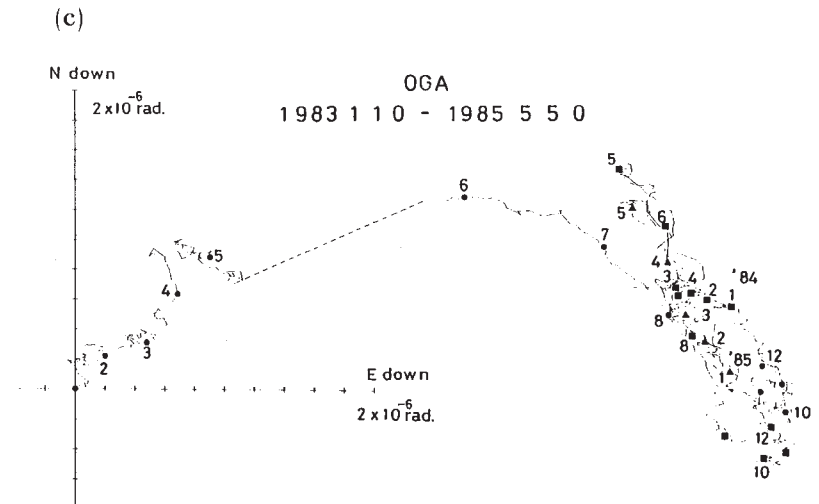
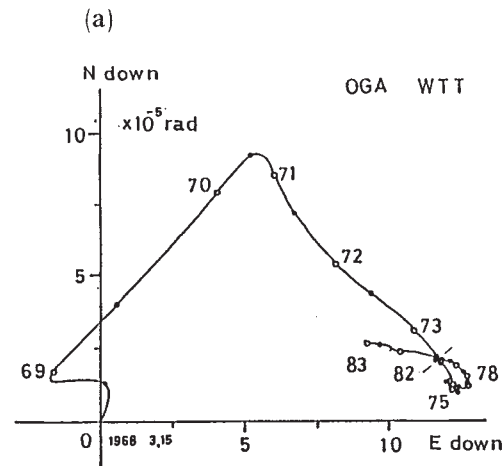
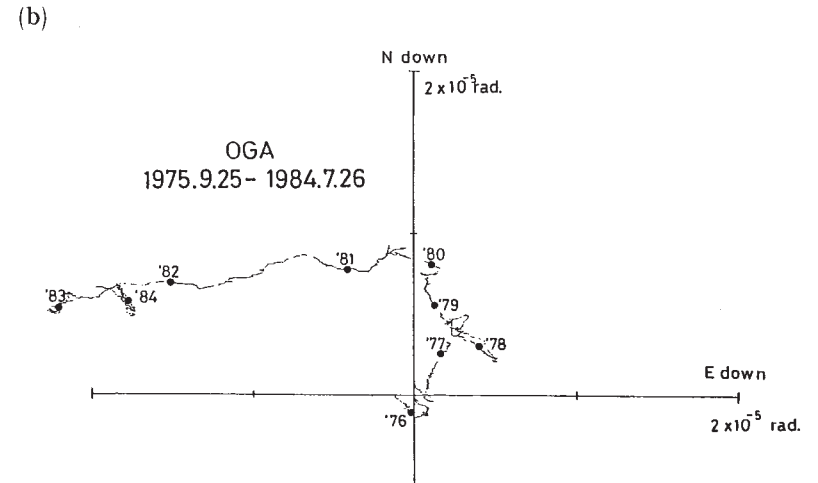
東北大学 理学部
Faculty of Science, Tohoku University

東北大学の地殻変動連続観測網の内, 日本海沿岸の長スパンの計器をもつ 3 観測点 (OGA, GJM, NIB, 第 1 図) の水管傾斜計により観測された傾斜変動について報告する。第 2 図は男鹿 (OGA) の最大傾斜ベクトルを示す。日本海中部地震 (1983 年 5 月 26 日, $M = 7.7$) 後は年周変化 (NW - SE 方向) のみで, 経年的な変化は認められないのに対し, それ以前, 特に 1980 年以降では年周変化よりも経年的な変化が卓越していることから, このような現象が日本海中部地震に関連したものであるとも考えられる。第 3, 4 図は仁別 (NIB), 五城目 (GJM) の最大傾斜ベクトルを示す。NIB の場合, 年周変化は 1 ~ 6 月では ENE, 7 ~ 12 月では SSE 方向であり, これに SE 方向の経年的な変化が重ね合わさったように傾動が進行している。GJM の場合は EW 方向の年周変化をしながら NE 方向に経年的な傾動が進行している。NIB, GJM の場合, OGA で見られたような現象は認められない。



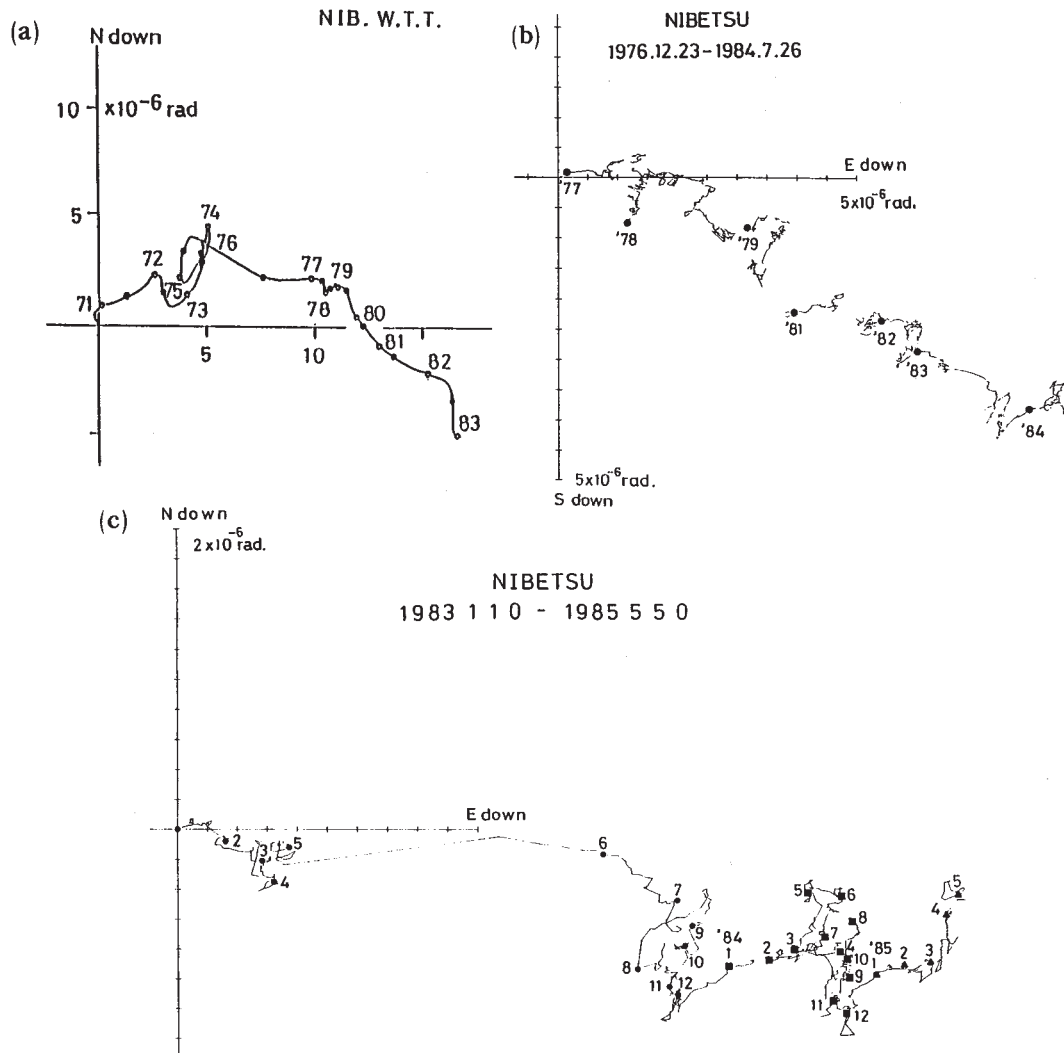
第1図 日本海中部地震(1983年5月26日, $M = 7.7$)の余震分布 (May 26 - Jun. 30, 1983)と観測点配置

Fig. 1 Epicenter distribution of aftershocks of the Japan Sea Earthquake (May 26, 1983, $M=7.7$) for the period May 26 - June 30, 1983, and location of observation stations.



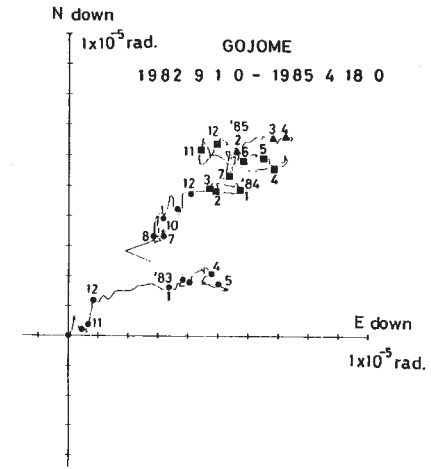
第2図 男鹿(OGA)における水管傾斜計により観測された最大傾斜ベクトル。(a)1968年3月~1983年1月, (b)1975年9月~1984年7月, (c)1983年1月~1985年5月

Fig. 2 Vector diagrams of the maximum descending tilt direction observed by water tube tiltmeters at Oga (OGA). (a) Mar., 1968 - Jan., 1983. (b) Sep., 1975 - Jul., 1984. (c) Jan., 1983 - May, 1985.



第3図 仁別 (NIB) における水管傾斜計により観測された最大傾斜ベクトル。(a) 1970年8月～1983年1月, (b) 1976年12月～1984年7月, (c) 1983年1月～1985年5月

Fig. 3 Vector diagrams of the maximum descending tilt direction observed by water tube tiltmeters at Nibetsu (NIB). (a) Aug., 1970 - Jan., 1983. (b) Dec., 1976 - Jul., 1984. (c) Jan., 1983 - May, 1985.



第4図 五城目 (GJM) における水管傾斜計により観測された最大傾斜ベクトル (1982年9月～1985年4月)

Fig. 4 Vector diagram of the maximum descending tilt direction observed by water tube tiltmeters at Gojome (GJM) for the period Sep., 1982 - Apr., 1985.